



一般社団法人
宮城県理学療法士会
ニュース 2022 No. 1
(通巻169号)

目次

卷頭言	1
第4回宮城県理学療法士会員ミーティング …	3
第13回一般社団法人宮城県理学療法士会 定期総会報告	7
一般社団法人 日本理学療法学会連合 (JSPT) の船出から一年を振り返って	8
第5回MPTAミーティング報告	10
Column : 新人の皆さんへ	12
東京オリンピック活動報告	13
第25回宮城県理学療法学術大会を終えて	15
宮城県理学療法士連盟 活動報告	16

巻頭言

「価値ある未来のために」

会長 渡邊 好孝

【AIの進化と人間の成長】

21世紀は人工知能(AI)の進化と共に人間が成長する時代。人間とAIによる新たな価値創造によって社会の様々な問題や課題は解決されていくだろうと思っています。

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に、中国の湖北省武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数か月の間に世界的な大流行となり、現在も世界各国から症例が報告されています。これに対し、科学的な感染予防対策や、ワクチンならびに新薬のスピーディーな開発を果たすAIの存在価値は大きく、人類の命を守る国際秩序にも大いなる貢献をしています。

このような矢先、2022年2月に、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、今世紀最大の深刻な人道危機に陥っています。国際連合(国連)の常任理事国で安全保障理事会(安保理)理事であるロシアが軍事侵攻を行なっていることは、到底理解しがたいものです。国連憲章による国際秩序を守るべき立場のロシア大統領の意思決定は、民族の歴史や地政学の知識量や理解に関わらず、時代錯誤と言わざるを得ないでしょう。

人間の生産性の成長率は、紀元前から産業革命時までは2倍程度でしたが、1800年の産業革命以降(機械化・電化・コンピューターによる情報化、AIによるテクノロジーの進化)の現在までに50~100倍に成長したと言われています。

21世紀は、AIの進化と共に人間が成長する時代であり、AIの活用によって人間の道具であるAIもモノの進化もこれまでを超越するスピードで進化し続けます。これを人類が上手に使いこなせば、国家間の力の均衡や国際秩序が保たれ、新たな価値

創造によって様々な社会問題が解決されると思います。

しかし、ウクライナ情勢の報道から見えることは、20世紀の戦争の歴史映像と変わりません。まだまだ、人間そのものが成長するには時間がかかるのだと思います。

【価値ある未来へ】

日本は平和で素晴らしい国だと思いますが、民主主義のレベルでは同じ体制を取っている諸外国よりも低いレベルにあると言われています。これは、選挙での投票率の低さに起因し、政治に関心が低く、政治に参加していない国民が多いことを意味しています。

積極的に若者の社会参加を促す目的として、選挙権は2016年から18歳に引き下げられ、また、本年4月より成人年齢も18歳となりました。個人の意思が尊重され自己責任が果たせる大人と認められたことは喜ばしいことです。しかし、相変わらず若い世代の投票率が低く、国民として自国のあり方や自分の将来を決める能够性のある民主政治に、強い関心を持って行動できていない現状と言えます。

私は、「理学療法士の未来は理学療法士の力でつくりたい。そして、“価値ある未来へ”つながる仕事をしたい。」と思っています。そして、困難と思える目的や目標であっても“未来に恋して夢を持ち”楽観的に努力し行動できる若者が増えることを願っています。

“今をぼやき、未来を憂いて何もしない愚か者”になってはいけません。自分たちの未来と未来の社会をより“善い=幸福”方向へ向かわせる強い力を持つための行動をしましょう。

【民主主義と資本主義】

日本は民主主義と資本主義を両立している国家です。民主主義国家にとって、議員を通して政治的主張をする間接民主制は不可欠ですが、民主主義イコール多数決で意思決定されることではありません。少数意見をも反映した案の中から、多数決で採択されるのが民主主義の本質です。また、多数者の専制によって少数派の意見や個性や才能が活かされなくなることを危惧し、採用されているのが比例代表制です。

資本主義市場経済体制の社会では、人・物・金・情報(経営資源)が潤沢にある資本家が体制の勝者となるのかもしれません。経営資源が乏しい者はあえて戦わない選択肢もありますが、勝者にならなければ問題解決に寄与することはできません。敗者は問題点を指摘することはできても、解決行動の主体にはなれません。

【資源と資本】

「資源」と「資本」は分けて考えることが必要です。例えば、経営資源の人的資源を考えた場合、資源とは消費するものなので、その費用は経費(コスト)となります。当然、コストパフォーマンスの高い方が高利益となるので、生産性に見合った対価が支払われます。

私たちの対価は、診療報酬や介護報酬と密接な関係にあります。こちらが下がれば人件費の消費が高くなってしまいます。

一方、資本は磨くほど輝きを増し価値を高めるものとみなすことができます。したがって、人的資本に投資することは、その人が持っている能力やスキルを発揮させることと同時に、経済的な価値を生むことにもつながります。

理学療法士の人的資産価値は非常に高いと自負していますが、数が増えることで希少性が低下し専門家としての資質の低い人が増えれば、利用のされ方も変わって

しまいます。国民から満足を超えた感動や感謝の気持ちを受け取り、利用され続けるには、高い専門性と人間性の質を磨き続けなければなりません。

資本主義市場経済体制下では、利益を求めるために誰もが自由にその市場に参入できます。信用され利用され続けなければ淘汰されてしまう厳しさがあります。のために多くの団体は、強い政治力を持つと活動しているのも民主主義の事実です。

【信用と利用】

信用することと利用することについて、私は、信用している方に利用されることに喜びを感じますし、信用しているからこそ利用されても損をした気持ちにはなりません。

私には信用する政治家が数名いますので、私の応援行動はその方に一票を投じることです。候補者のことが詳しくわからなければ、信用している人が推薦している方に投票します。私の一票が、私と組織と社会の幸福に使われることを信じて、投票しています。

現在、理学療法士の平均年齢は約33歳。さまざまな“情報を使いこなせる若い人が資産”です。そして、“政治に関心を向け、社会に善い変化を起こすことを厭わない賢い若者集団”であると信じています。

理学療法士の仕事に誇りを持ち続け、私たちの組織代表として、崇高な理想を持って国会で汗を流す先輩を信用してください。

皆さんの一票が必ず価値ある未来のための投資になります。

第4回宮城県理学療法士会員ミーティング

太白支部の活動紹介

宮城県理学療法士会 太白支部支援理事
関 崇志

2021年2月24日に開催されました第4回宮城県理学療法士会員(MPTA)ミーティングにて、太白支部の活動についてお話をさせていただきました。その一部をご紹介いたします。

昨年、宮城県理学療法士会のブロック局が再編され、当地区は、“太白名取地区”から“太白支部”へと名称およびエリアが変更されました。したがいまして、“太白名取地区”的時期も含めまして“太白支部”的活動を紹介したいと思います。

太白支部には、44の施設があり、自宅会員を含め205名の会員が所属しています。大規模災害発生時の協力体制等を考慮し、近隣の施設で班を構成し7つの班を設けました(図1)。現時点では、これらの班は情報の伝達・収集といった連絡網として機能しています。

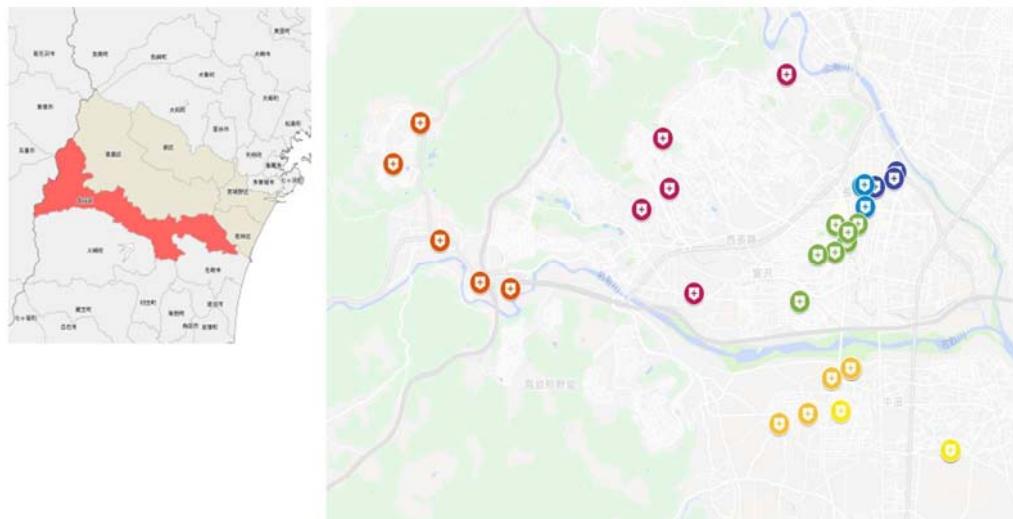


図1 太白支部 map

左:仙台市を中心とした宮城県の地図。黒い太枠に太白支部の所属施設が存在。

右:左図の太枠を拡大したもの。7つの班を色分けして表現。

太白支部の主な活動は、年2回の地区研修会の開催です。脳卒中理学療法をテーマにした研修会を2013年から継続しており、臨床に直結するような内容を目指してきました。研修会の構成は、講師による特別講演と、県士会員からの症例報告が主です。著名な講師をお呼び出来ることもあります。全国規模の研修会では、このような講師に日常の疑問について質問をすることは難しいと思いますが、当支部の対面による研修会は数十人と小規模ですので、和やかな雰囲気の中で、講師との意見交換が行えています(図2)。脳卒中患者を受け入れている県内の急性期、回復期、生活期の施設から講師をお呼びしての連携をテーマに意見交換や、義肢装具士など理学療法士以外の専門職による講演も企画しました(図2)。県内の回復期病棟を持つ代表的な6病院の代表者によるシンポジウムも開催しました(図3)。回復期における脳卒中理学療法の考え方や課題について理解し合える会になりました。研修会の終了後には、講師を囲んでの懇親会も行っていました(図2)。懇親会は、研修会参加の有無にかかわらず、太白支部内の会員に声掛けをし、顔のみえる関係づくりも目的としていました。



図 2

左:田中惣治先生のご講演での質疑応答の様子。
右上:急性期、回復期、生活期の施設からの講師による意見交換の様子。
右下:義肢装具士による講演の様子。



図 3

左:宮城県内の回復期の施設代表者によるシンポジウムの様子。
右上:研修会終了後の集合写真。
右下:懇親会の様子。

COVID-19 感染拡大に伴い、2020 年以降の研修会は対面開催ではなく Web 開催となっています。Web 開催は、全国から参加が可能であり、育児や介護で対面開催では参加が困難であった会員も参加しやすいといった利点もありますが、顔のみえる関係をつくることが難しく、研修会終了後の会員同士のコミュニケーションの場を設けることが出来ないのは寂しいものです。感染が終息し対面開催が可能となる日が来ることを願っています。

太白支部の活動に興味をもっていただけましたら幸いです。太白支部の会員はもちろん、県内の多くの会員の参加をお待ちしております。

気仙沼支部の活動紹介

宮城県理学療法士会気仙沼支部
小野寺 裕志

【地域特性】

宮城県理学療法士会気仙沼支部は宮城県北東部に位置する、気仙沼市と南三陸町の1市1町で構成されています。

気仙沼市の人口は約60,000人^{*1}、高齢化率38.7%^{*2}となっており、南三陸町の人口は約12,000人^{*1}、高齢化率37.7%^{*2}の超高齢社会となっています。

気仙沼市の名産品は世界一と言われるふかひれ、漁獲量日本一のかつおなどがあります。また、南三陸町は西の明石、東の志津川と言われるほど有名なたこ、ウニやいくらをたっぷりのせたキラキラ丼があります。

また、2021年5月からは気仙沼市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」が放送され、放送終了後も聖地巡礼が人気となり観光客が増えました。

気仙沼市と仙台市間は約130kmあり、以前は車で片道約3時間掛かっていました。現在は三陸自動車道開通となり2時間程度で移動可能となっています。



【気仙沼支部概要】令和3年12月末日時点

気仙沼支部の理学療法士は62名(20代男性16名、女性9名、30代男性19名、女性9名、40代男性3名、女性5名、50代女性1名)おり、所属先は17施設で病院・クリニックが5施設、老人保健施設5施設、訪問看護ステーション2施設、訪問リハビリステーション1施設、特別養護老人ホーム2施設、デイサービスセンター1施設となっています。20代・30代で85%以上を占める若手の理学療法士が多い組織となっています。

【支部研修会】

気仙沼支部では令和元年～2年はコロナ禍で思うような活動ができませんでした。そこで、コロナ禍の状況でも研修会ができるように、Zoomを利用したweb研修会、web+対面でのハイブリッド研修会ができるように準備を進めてきました。今後はweb、対面、ハイブリッドのあらゆる方法で研修会を開催していきたいと思います。

コロナ感染症流行前は新入会員歓迎会・交流会からはじまり、新人教育プログラム、座学・実技研修等実施してきました。

新人教育プログラムは、座学は平日の夜、実技は土曜日あるいは日曜日に開催し、さらに2ヶ月連続のシリーズ開催をするなど、開催方法を工夫しながら、1年間で修了できるように計画実施し、年度末には症例発表をしてきました。

参加率は非常に高く支部内の意識向上に繋がっています。



【令和元年度】※対面

開催月	テーマ	講師(敬称略)	参加数
6月	これからの理学療法士	渡邊 好孝	22
6月	歓迎会・交流会		30
8月	脳血管疾患に対する最新の理学療法アプローチ①	阿部 浩明	32
8月	脳血管疾患に対する最新の理学療法アプローチ②	阿部 浩明	30
10月	脳血管疾患の基本動作の診かたとアプローチ	渡辺 幸太郎	31
11月	酸素搬送系の視点から呼吸的介入を考える	星 孝	30

【令和2年度】

活動なし

【令和3年度】※web

開催月	テーマ	講師(敬称略)	参加数
2月	バランスの臨床的視点と運動療法への展開	鈴木 誠	20

【支部運営】

今年度から気仙沼支部の活性化を促進する目的で運営スタッフの増員を実施しました。なかでも20代のスタッフを増やし、今後の世代交代と若手が主体的に運営に関わることを目指しています。

また、支部運営スタッフの情報共有、支部内の事業所への情報発信をスムーズに行う事を目的として運営スタッフLINEグループの作成、支部内事業所連絡網の作成を行いました。

【今後の展望】

気仙沼支部は他の支部と違い人数が少なく、20代、30代の若手が多い組織となっています。また、気仙沼は宮城県の中で陸の孤島とよばれる少々不便な地域となっています。その環境だからこそ、地域でまとまり、地域で完結するという自称『気仙沼モデル』が完成できたのだと思っています。今後も、気仙沼モデルを醸成し宮城県、東北、全国に展開できるよう精進したいと思います。



第13回一般社団法人宮城県理学療法士会 定期総会報告

事務局長
高橋 利幸

令和4年5月29日(日)東北文化学園大学に於いて、第13回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会が開催されました。昨年度に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑みまして、会場開催とオンラインでのハイブリット形式で行いました。当日参加出来なかつた会員の皆様も委任状の送付にご協力を頂きまして誠にありがとうございました。定足数を満たし、総会を開催することが出来ました。

総会では令和3年度の活動報告並びに決算報告、令和4年度の活動計画及び予算案、役員改選が審議され承認されました。質疑応答にあたりまして、昨年度からの組織改編による県内の支部化についての中期計画や事業展開について、各種委員会の規定作成や整備、繰越金の適切な運用について等、多くの貴重なご意見を頂きました。これらのご指摘を踏まえ「自律分散型協調組織」を目指し、今年度は2名の新役員を迎え理事17名、監事3名の執行体制で活動を進めてまいります。

引き続き会員の皆様のご協力を何卒宜しくお願ひ致します。

【新役員の紹介】 監事:3名 理事:17名

監事	所属	監事	所属
遠藤 伸也	仁明会 地域支援事業部	三浦 幸一	特別養護老人ホームまるめろ
黒後 裕彦	東北文化学園大学		
理事	所属	理事	所属
渡邊 好孝	医療法人光友会アルパイン川崎	鈴木 誠	東北文化学園大学
藤野 隆喜	東北労災病院	羽田 智大	仙台医健・スポーツ専門学校
村上 賢一	東北文化学園大学	坂下咲希恵	エバーグリーン・ツルガヤ
阿部 功	総合南東北病院	高橋 一揮	東北文化学園大学
榊 望	仙台リハビリテーション病院	石島 孝樹	株式会社ハートリア
高橋 利幸	エバーグリーン・イズミ	関 崇志	広南病院
新山 正都	大和町たかはし整形外科クリニック	坪田 朋子	合同会社リハビタ
櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院	三田村 徳	東北医科大学病院
鈴木 博人	東北文化学園大学		

一般社団法人 日本理学療法学会連合(JSPT) の船出から一年を振り返って



東北文化学園大学医療福祉学部
JSPT 理事長 藤澤 宏幸

2021年度、日本理学療法学会連合(以下、本会)は、12の法人格を有する学会(法人会員)と、将来的に発展が期待される8つの研究会(学術団体会員)を団体会員として船出しました。コロナ禍のなか、運営体制を整えることを主眼として取り組み、気がつけば一年が過ぎようとしております。日本理学療法士協会(以下、協会)の会員の皆様には、まだまだ今回の学会法人化についての情報が十分に行き渡っているわけではないと思いますので、この機会に本会設立の目的、今後の活動について紹介させていただきます。

本会は日本理学療法士学会として、2020年度まで協会内部の組織として活動してまいりました。しかし、独立した組織ではないことから、他関連学会とのコラボレーションや、本来の学会としての活動が制限されることも少なくありませんでした。そこで、協会、都道府県理学療法士会と三位一体の関係性を保ちながら、法人学会としてのメリットを最大限引き出すことを目的に設立することが決まったわけです。まずは、日本学術会議の協力学術団体に登録することを目標として、学会誌の刊行、学術大会等の開催を行い、充実し

た学術活動をおこなってゆく予定です。協会員の皆様は学会員と同様に、これまで通り学術大会への参加、学術誌への投稿が可能ですので、積極的に参加いただきたいと思います。

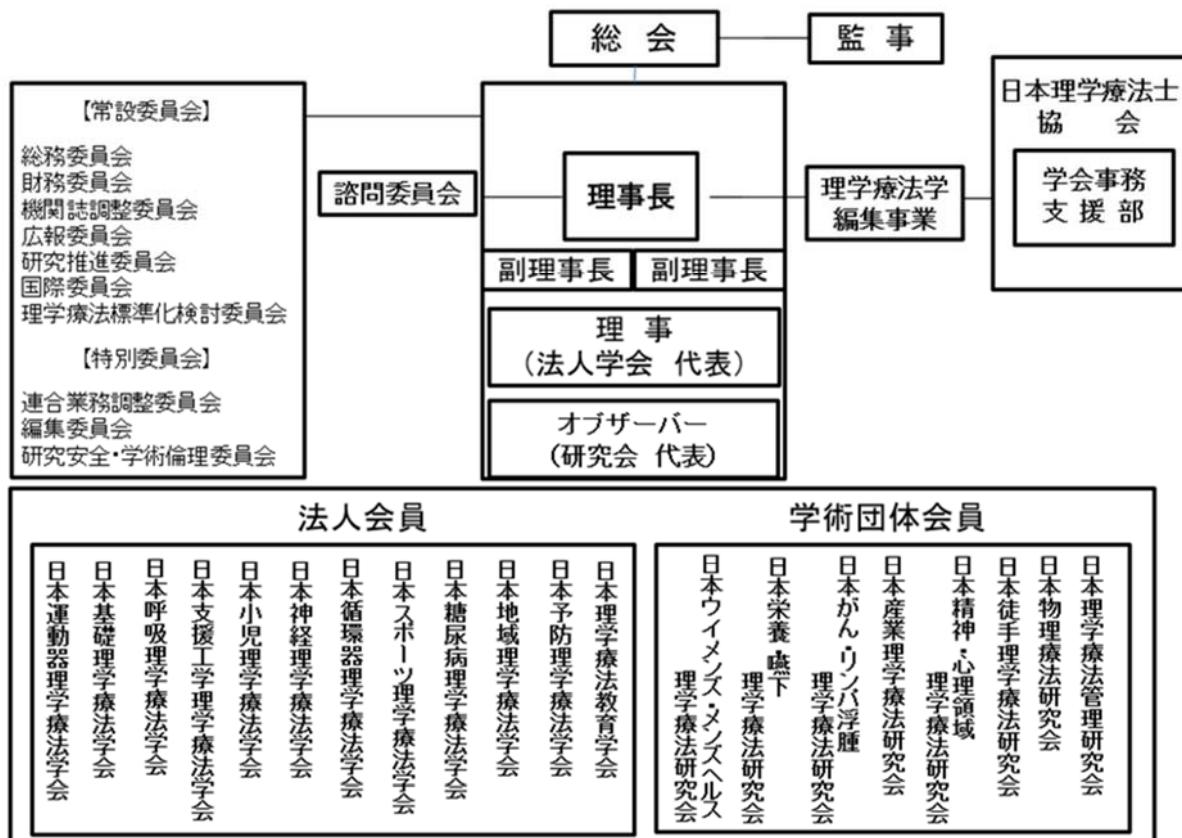
さて、本会の目的は、団体会員が相互に連携しながら、理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することにあります。その目的を達成するために、7つの常設委員会と3つの特別委員会を置き、その目的を達成するために活動しております。また、会員団体が発展するための支援をおこなうことも重要な使命であり、皆様にも是非とも専門会員または一般会員になっていただきたくお願い致します。

本会の会員団体における会員制度は、専門会員と一般会員の二つに分かれております。基本的に専門会員は研究者(研究業績のある者)、一般会員は関連領域の認定・専門理学療法士を有する方、もしくは研究発表の実績のある方を条件としております。詳細

につきましては、本会ホームページ
(<https://www.jspt.or.jp>)をご覧ください。

最後になりますが、本会のような大規模な学会・研究会の連合体は医学会、看護関連学会以外にはありません。私たち理学療法

士がこれまで培ってきた研究志向が学問を発展させてきた成果といえます。皆様が興味ある分野で専門的な知識を共有し、高い専門性のもとに学術活動に参加できる機会が出来たわけです。一緒に本会および20の法人学会・研究会を育てて行きましょう。



日本理学療法学会連合 組織図

第5回MPTAミーティング報告

E-nudge 委員会 委員長
水戸 奈津美



当委員会は、若手理学療法士の活躍を推進することで、MPTA 全体の活性化を図ることを目的として活動しています。去る 3 月 29 日、「2021 年度第 5 回 MPTA ミーティング」にて当委員会の活動紹介をさせていただきましたので、報告させていただきます。

当日は委員含め 21 名の方々にご参加いただきました。会の冒頭には渡邊会長より「20 代・30 代の PT へのメッセージ」をいただきました。参加者からは「価値観を大切にすることがとても大切であると感じた」などと意見が聞かれ、質疑応答でも盛り上がりを見せました。

また、2021 年度に開催した 7 つの企画についても、各担当委員より報告いたしました。昨年度は「憧れ(AKOGARE)の先輩を見つけよう」をテーマに掲げて活動を展開しました。各企画を通して、県内各地の先輩理学療法士の方々に、「生きがい(IKIGAI)」や「やりがい(YARIGAI)」を含んだ貴重なお話をいただきました。参加者からは、「毎回普通の研修では聞けない内容が楽しかった」「講師として話す機会をもらったことで、自分の今までの活動が良かったのだと思った。」などのご感想をいただきました。この企画は、私にとっても学びが多く、「『今できることを精一杯やってみる』ことが、やりがい(YARIGAI)への近道なのではないか」と気づくことができました。また、この活動は私たちだけの力だけではなく、諸先輩方のサポートがあってこそ成り立っていることを改めて実感する機会となりました。この場をお借りして、御礼を申し上げます。

さらに、2022 年度の予定企画についても紹介させていただきました。2022 年 5 月現在、当委員会は 2~13 年目理学療法士 17 名で構成されており、日々試行錯誤しながら仲間と共に成長しています。2022 年も考え続けることを止めずに、私たちにしかできない活動を続けてまいります。今年度もお力添えいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

次ページ、2022 年度の予定と、各チームのリーダー、最若手のメンバーを紹介いたします。

The poster features the text 'E-nudge' prominently at the top. Below it, it says '第5回 MPTAミーティング' (5th MPTA Meeting). It includes logos for 'mynod' and 'MPTA'. The date '3月29日 (火)' (Tuesday, March 29), time '19時30分~21時00分予定' (Scheduled from 19:30 to 21:00), and 'Web開催 (zoom)' (Virtual via zoom) are listed. A section titled '[Update]' discusses past and 2022 activities, mentioning a speech by the president about '20代・30代のPTへのメッセージ' (Messages for 20s and 30s PTs). A QR code for registration is provided, along with a message in Japanese encouraging participation.

2022年度開催予定企画（現在開催テーマが決定しているもの）

(1) 新人PT歓迎会～新たな仲間と繋がろう～ ※盛会のうちに終わりました。

日時：4月22日(金) 19時30分～20時30分

(2) 新人・若手PT交流会+ミニ勉強会 ※盛会のうちに終わりました。

日時：5月29日(日) 19時00分～21時00分

ミニ勉強会「1年目のための動作分析」 講師：鈴木 博人氏(東北文化学園大学)

(3) [ミニ研修] TSUNAGU × 認定PT－10年目の認定理学療法士の先輩に聞いてみよう－

日時：6月29日(水) 19時30分～21時00分

(4) TSUNAGU × Specialists－僕、私の1年目－(仮)

日時：7月下旬予定

and more...



※詳細は、宮城県理学療法士会公式アカウント、HP等でご確認ください。 ⇒



各チームリーダー、最若手の委員の紹介

2022年度は以下3つのチームで運営しています。各チームのリーダーと併せて、1年目から一緒に活動している最若手のメンバーを紹介いたします。

マーケティング班

我妻 昂樹(東北文化学園大学)



皆さまのためになる企画となるよう、意見を集める仕組みを考え、各企画に活かしています！

TSUNAGU班

佐藤 衛(まるめろナースステーション西多賀)



参加者と講師の心が繋がり、明日を楽しく生きるモチベーションになるような企画を考えています！

研修企画班

栗村 竜也(みやぎ南部整形外科クリニック)



こんな研修があつたらいなというオリジナルの企画を、チームのメンバーと考えています！

現在最若手(2年目)

橋本 優真(宮城厚生協会長町病院)



気軽に意見を話しやすい雰囲気です。若手の方々、ぜひ一緒に活動してみましょう！

委員は随時募集しております！お気軽に下記メールアドレスにご連絡ください。

▶問い合わせ : mpta.future.since2020@gmail.com (E-nudge 委員会 水戸奈津美)



Column: 新人の皆さんへ

幸せの4つの因子

「ありのままに」「ありがとう」「やってみよう」「なんとかなる」

国家試験に合格し、仕事も決まり、
チョットだけ、なりたい自分になれたでしょうか。

そろそろ新しい生活にも慣れてきた頃かと思いますが、
晩ご飯を食べて風呂から上がったら、いつしか寝てしまう毎日かも…。
チョットずつ幸せ気分が薄れていませんか。
安心して愚痴を聞いてくれる人はいますか。
人の目を気にせず、自分らしく「ありのままに」いられれば幸せですね。

働くことに“いきがい”を見つけるには、まだ時間はかかりそうですが、
『PTになろう！！』と思った時の気持ちを忘れないでください。
それが、これからも仕事の目的(幸せづくり)になると思います。

いつも明るく笑顔で挨拶をしている先輩や友人の傍らにいることをお勧めします。
「ありがとう」を言ったり言われたりする“つながり”に幸せを感じてくださいね。
挨拶上手になれば、独りぼっちにならないし、チャンスもやってきます。

“あこがれ”的先輩を見つけて真似をしてみましょう。
どんなことでも、あこがれに近寄ると真似をしたくなりませんか。
自分から「やってみよう」と思うことに、やらされ感はないから、
「なんとかなる」と前向きに考えを巡らせ楽しめますよね。
楽観的に努力を続けると、成功も失敗も楽しめます。
成功しなくとも、一番にならなくても、
たくさんの“やりがい”価値を見つけられるので幸せ気分になれると思います。

先輩も後輩も、お互いの幸福を『イ～nudge！』し続けましょう。

Yoshitaka. W

参考:

Web検索キーワード: 幸せの4つの因子、慶應義塾大学大学院教授・前野隆司 氏

東京オリンピック活動報告

松田病院 リハビリテーション部
佐藤 友梨花



2020 東京オリンピック競技大会には、205 の国と地域から約 11000 人のアスリートが参加し、約 2 週間に渡り 33 競技 339 種目が行われた。

私は、選手村診療所(東京・晴海)で 7 日間、セーリング分村(神奈川・大磯)で 21 日間活動した。

大会期間は、2021 年 7 月 23 日から 8 月 8 日までの約 2 週間で、選手村は 7 月 13 日に開村、8 月 11 日に閉村し、選手村診療所(Poly Clinic=ポリクリ)もそれに準じて運営され、大会期間前後にもアスリートが利用できる仕組みだった。

選手村は、本村の選手村診療所(東京・晴海)、セーリング村(神奈川・大磯)、サイクリング村(静岡・修善寺)の 3 つに分かれている。

いずれのメディカル部門にも、医師、看護師、薬剤師、理学療法士が配置され、本村のポリクリには多くの診療科が設置された。診療科は、整形外科、内科、発熱外来、歯科、眼科、皮膚科、画像検査科、臨床検査科、女性アスリート科、調剤薬局、救急外来、精神科、理学療法部門だ。理学療法部門は朝 7 時から夜 23 時まで運営され、活動スタッフは前半シフトと後半シフトに分かれ、本村では 10~15 名、分村では 4~5 名の理学療法士が常駐した。

その他に、競技会場毎にメディカル部門が設置され、そこに配属される理学療法士もいた。競技会場で活動する理学療法士には、練習中・試合中に負傷したアスリートの対応を行う業務などがあった。

今回理学療法士は、スポーツ現場での活動実績や外国語能力などが重視され選抜された。大会期間中には、790 名の理学療法士が会場医療で、そしてポリクリでは 153 名の理学療法士が活動した。ポリクリは、オリンピック組織委員会推薦のコアメンバーと、日本理学療法士協会推薦スタッフの混成チーム、会場医療のスタッフは日本理学療法士協会と各競技団体からの被推薦者の混成チームで構成された。

今大会では、Covid-19 の対策が必須で、スタッフは毎日活動前に PCR 検査を受け、感染対策を徹底し診療所を運営していた。

理学療法部門の利用者は、各国のアスリートやその帯同スタッフなど多岐に及んでいた。理学療法部





門のサービスは、急性期対応、運動療法や物理療法などで、私は10カ国以上の様々な競技のアスリートの理学療法を担当した。それには、英語力の他にも多様な宗教や文化に応じた対応が求められた。

また、アスリートによっては宗教上の理由などから女性理学療法士による対応が求められることも多かった。しかし、このように女性理学療法士の需要が多い中で、今回活動していた女性理学療法士は全体の2割程度と少なく、スポーツ現場における女性理学療法士が担う役割の重要性を感じると同時に、人材が不足している現状を改めて感じた。

また、今大会を通して世界のハイパフォーマンスアスリート達から、日本の理学療法が高い評価を得られたことも聞き、そこに微力ながらも尽力させて頂く機会を得たことは私にとって本当に貴重な経験となり、自信となったことを確信している。自分の関わったアスリートがメダルを獲得した場面や、言語や文化の壁を越えたコミュニケーションを図ることができた瞬間を、私は一生忘れないと思う。それと同時に、日本のスポーツ理学療法の発展に今後自分の出来得る最大限の貢献をしていきたいと、改めて決意した。



第25回宮城県理学療法学術大会を終えて

仙台リハビリテーション病院
五十嵐 直樹

私は、今大会の大会準備委員長として参加しました。COVID-19 の影響のなか、大きな不安と緊張の中で準備を進めました。大会準備には、鈴木博人学術大会部部長(東北文化学園大学)はじめ、学術大会部部員の方々および関係各所より多大なご協力を頂きました。昨年末までは順調かと思われた大会準備でしたが、大会直前、変異株出現に伴い仙台市より緊急特別要請が発令されました。これを受け、全面 Web での開催へと変更し、大会当日まで慌ただしく準備に追われました。

そのような今大会でしたが、フレッシュマンセッションやシンポジウムはディスカッション形式で行い大変な盛り上がりを見せたかと思います。特にシンポジウムは「臨床の疑問を専門・認定理学療法士に問う」と題し、臨床における身近な疑問に対しシンポジストより学術的な回答も得られ大会後の評判も良好でした。さらにシンポジストからも研究意欲が向上したとの事で、参加者に留まらず発表者のモチベーションにもつながった大会であったと多数の声を頂きました。

Web 開催であったため互いに顔を合わせることは難しい状況でしたが、県内の学術交流の場として、重要な役割を果たすことができたと認識しています。来年行われる大会も引き続き準備委員長を務めさせて頂く予定となっています。肃々と開催テーマ、企画等の準備を進めております。どういった形での開催となるか、まだまだ情勢次第ですが、開催することが本当に大切だと考えております。ぜひ、多くの方々にご参加頂き、県士会活動を盛り上げて頂ければ幸いです。みなさまのご参加心よりお待ちしています。

宮城県理学療法士連盟 活動報告

日本理学療法士連盟東北ブロック幹事
宮城県理学療法士連盟会長
羽田 智大

2022年3月13日、東京のグランドプリンスホテル新高輪にて第89回自由民主党大会が開催されました。そこで宮城県理学療法士連盟支部は「優秀党組織」として表彰されました。この場をお借りしてご協力賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

また、この党大会では参議院選挙 候補者紹介がありました。理学療法士の組織代表 小川克巳(かつみ)先生も岸田総理としっかりグータッチで勝利を誓い合ったのでした。



さて、いよいよ選挙モードに入ってきました。自分が今言えることは2つ。「選挙に行こう！」「期日前投票をしよう！」です。きっと60代にもなれば選挙にいくことになります。その時に年金や医療など限定されたイシューで候補者を選ぶことより、選挙体験を先取りして快適な未来づくりに参加する方がワクワクしませんか？ 若いときにみる未来は限定されないからこそ価値があるのです。



こちらは 小川かつみ応援団 LINE オープンチャットのQRコード
友達申請もせずにニックネームで 30 秒登録できます！
PT の未来を誰よりも早く正確に知りたい全ての会員はご登録下さい

ところで、円安、増税、物価高…経済関連では暗いニュースが多いですが、長い目でみた場合、今後の日本のトレンドは労働環境改善と賃金向上がほぼ確実です。なぜなら若者人口減による労働力の市場価値の向上、低賃金・劣悪労働慣行企業の淘汰が起こるからです。DX化と可住地密度の適正化がそれを後押しします。

そんな中、回復期の診療報酬削減などが起こると(LINE オープンチャットに詳しく！)労働成果の安売りが理学療法士を直撃し、もはや優秀どころか単なる若者すら集まらない業界になり下がります。価値ある未来をつくるのは皆さんです。誰に未来を預けますか？

FAXニュース配信について

◇広報部では研修会などのご案内を G!MP ニュースとして会員各施設に FAX で配信しております。

現在 FAX が届いていない施設や登録番号が変更された施設の代表者の方はお手数ですが、下記までご連絡頂きますようご案内申し上げます。

また代表者(宛名)が変わられた施設もご連絡頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部

宛 先: 〒981-3341 富谷市成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 高橋 歩

TEL : 022-351-8118 FAX : 022-351-8126

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切: **2022年11月15日まで**

発行日 : 2022年6月23日
発 行 : 一般社団法人宮城県理学療法士会
代表者 : 渡邊 好孝
編 集 : 佐々木友也 高橋 歩
印 刷 : 合同会社P・プログレス
〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-33-17

